



月刊美術

2021年10月号 秋展NAVIにて

『江副拓郎個展2021』『岡啓介個展』を
ご紹介いただきました

江副拓郎 個展2021

10月9日(土)～14日(木) 土日

岡啓介 個展

12月18日(土)～23日(木) 会期中無休

かわうそ画廊

東京都中央区新富1-8-11 東新ビル4F

☎03(3552)0550

12:30～18:00 / 最終日～16:00

<https://kawasogorou.com>

新富町
10月・12月

モトーンの京美人と
希望の象徴としての女性像



えぞえ・たくろう

1983年京都生まれ。専門学校でデッサンを学ぶ。2015年から本格的に活動し、東京・京都・大阪で発表。

人物画の人気画家を多数擁するかわうそ画廊は、この秋ふたりの洋画家の新作展を開催する。
江副拓郎は鉛筆をもちいたリアリズム技法で描き出す。人物の表情と衣装を的確に捉え、背景となる空間も克明に描写する画力は高い評価を得ている。

京都・京都の路地にたたずむ女性など外光のもとに描いた渾身の10余点を出品するほか、裸婦の新作も合わせて展示。モトーンだからこそ輝きを発揮する夢と現実をいきかいたような江副独特の作品世界を楽しんでほしい。



江副拓郎 《京小町III》 15P 鉛筆

洋画

秋展
NAVI



岡啓介
《あがないのとき》
12M 油彩



岡啓介 《斜陽の刻》
20M 油彩



おか・けいすけ
1962年香川県生まれ。86年香川大学教育学部卒業。2002年同大学院修了。08年新構造展文部科学大臣賞。17年青木繁記念大賞西日本美術展奨励賞。18年「かわうそ新人賞」月刊美術賞。19年新構造展内閣総理大臣賞。現在、一般社団法人新構造社委員（審査員）。

岡啓介は香川を拠点に制作。新構造展で着実に評価を高め、2016年からは「第一回ホキ美術館 プラチナ大賞」「かわうそ新人賞 2018」とコンクールに挑戦してその力を世に問うてきた岡啓介。数々の入選、受賞を経てコマージュルギャラリーと百貨店での発表を重ね、現在では作品待ちの人気画家となった。

「深く何かを想う真摯な女性像を模索しています。現代の孤独や不安その中にもみえる希望の兆しを描き出した」と、抒情豊かな女性の表情を描きつつ時代へのメッセージを込める。

昨春秋の同画廊での個展の大きな反響を受け、その写実技法にますます深化を見せる。約15点を展観する。